

クラス番号	316	担当教員名	湯原 悦子
		他専修学生受入上限人数	5名
テーマ	福祉と司法の両面から社会問題の解決をめざす ～非行、虐待、犯罪の事例をもとに～		

ゼミナール概要

<達成目標>

2年経った後、ゼミ生一人ひとりが「人を支援すること」への自分なりの視点を持ち、複雑な社会問題を読み解き、社会的に弱い立場に置かれた人々のサポートのために動き出せる力を身に付けていることをめざします。

<内容>

このゼミでは実際に起こった「事件」を取り上げ、その背景にある虐待、非行、犯罪について学び、理解を深めていきます。学びの観点は「司法福祉」です。司法福祉は、法的決着がついてもなお残る人々の生きづらさ、時を変え、場所を変え、同じような問題が繰り返される事項について、法的な解決とともに福祉の視点から「真の」意味での解決、臨床的な解決のあり方を模索していく学問です。

例えばある事件について裁判が行われ、法的な解決がなされたとしましょう。はたしてそれですべてが終わった、と言えるのでしょうか？ 必ずしもそうとは言えませんよね。子ども虐待も、介護殺人も、同じような事件が全国各地で繰り返し生じています。つまり、裁判が終わっても、その事件の背景となった社会的な問題の解決がなされていなければ、同様な事件が再発する可能性は高いのです。大事なものは、なぜそのような事件が生じたのか、加害者はなぜそこまで追い詰められたのかを幅広い視点から明らかにしていくことです。それらをふまえて、自分たちは何ができるのかを考えていくことが必要です。

このような問題意識から、ゼミでは主に2つのテーマを掘り下げていきます。一つは非行、虐待、犯罪などを学び、具体的な事件をもとに、現代の家庭や地域、社会が抱える問題を理解することです。もう一つはこれらの問題が生じる背景を読み解き、自分なりの問題意識を持ち、課題克服に向けて何をすべきか構想できる力を身に付けることです。

ディスカッションを通じて事件の理解を深め、問題の本質は何なのか、問題解決に向けどのようなアプローチ方法があり得るか、それらの限界は何か、家庭や地域、社会に求められることは何かなどについて深く考えていきたいと思います。そして1年後には、ゼミ生それぞれが自分自身の課題を見つけることができるよう、個別指導に力を入れていくことを考えています。

このゼミが扱う領域は子ども、障害、高齢、地域など多岐にわたります。「ふくし」、つまり人々の普通の暮らしの幸せについて、領域を絞らず、多角的に学んでいきたいと考えている方にはピッタリのゼミだと思います。

司法福祉って、なんか難しそう…。そう思う人、安心してください。司法福祉は3年からの受講科目です。皆がゼロからのスタートです。実際に生じた事件をもとに意見交換するので、取り組みやすいと思います。福祉と法律、両方の考え方を学べることもこのゼミならではのメリットです、きっと将来に役立ちますよ！

<方法と授業計画>

3年生の前期では、実際に起きた事件をもとに司法福祉の基礎的な知識の習得を目指します。事件について気になった点を挙げ、ゼミ生同士でディスカッションを行い、掘り下げた学習を行います。3年後期は個々の発表する力の強化に努めるとともに、教員との面談を行い、卒論執筆や就職に関して個別指導を行います。時間外には学生の希望に応じ、少年院や裁判所、地域の市民団体を訪問する活動なども企画します。

4年次では今までの学習をもとにそれぞれが研究テーマを設定し、4年間の集大成として卒論執筆に取り組みます。また、ゼミの時間に卒論のアドバイスをし、学生自らが気づきを深め、問題点への切り込みをより鋭くしていけるよう、働きかけます。

※ゼミの時間外に行う活動について

ゼミ生の皆さんには、社会の現実を知っていただくために市民団体への訪問や具体的事件の裁判傍聴、この領域の最新の動向を知ることができる研究会や学会への参加を奨励しています。ただし、これらの活動は週1回のゼミの時間内では行うことができません。時には時間外、交通費のかかる活動への参加も予定しておいてください。

※その他

卒ゼミ生の就職先は多岐に渡っていますが、将来、法務教官、家裁調査官、児童福祉司になりたい学生さん、歓迎します！（もしまだ将来、何をやりたいか決まっていなくてもOKです。その場合は個別に相談にのります）。

担当教員からのメッセージ



・エントリーシートを頼りにゼミ生を決定しますので、ご自身の関心や疑問に思っていること、ゼミでやりたいことなどをできるだけ詳しく書いてください。

・ゼミは講義と違い、一人ひとりの個性を尊重し、お互いに学び合える場です。分からないことや興味をもったことを率直に出し合い、柔軟に考えていく姿勢を大事にしたいと思っています。

…皆さんとの出会いを心から楽しみにしています！